

“人むすびの場”をともに創りませんか？

- ★「むすび（産霊）」とは、ものを生み出す力のことを表す古語です。
- ★「人むすびの場」は、ご参加の皆さん全員が「場づくり人」として、思いと知恵を分かちあい、未来に向かう「対話と創発の場」です。2008年から毎月開催しています。
- ★私たち一人ひとりが一枚の布を織りあげるように、どこを織っているかは後でのお楽しみで、世の中と関わることで、未来社会を明るいものにできるよう希（ねが）います。
- ★2018年も心ある取組みの“今”をお伝えし、対話を通じて前進しましょう。
皆さまのご参加を心からお待ちしています。

1. 第119回テーマ：「地域コミュニティ再構築を軸とした空き家利活用の今」

2. 日程：平成30年6月21日（木）午後7時～9時

3. 内容：☆ゲストスピーチ 近藤 威志（こんどう・たけし）さん

＜株式会社GTGP JAPAN 代表取締役＞

「空き家問題」が今、地方や都心部を問わず各地で課題となっており、空き家を地域住民みんなの参加でリフォームするなど、前向きに「地域の資産」として活用する取り組みが広がっています。

近藤威志さんは、浅草の空きビルを活用したアートの拠点づくり「HATCH」の取り組みから始まり、出身地の横須賀市での「地域100LDK構想」や、湯河原での温泉旅館の開業準備など、各地でユニークなリノベーションプロジェクトを進めており、地域コミュニティの再構築のために空き家を利活用する手法が注目を集めています。

集落を丸ごと100LDKの部屋（家）とみなして、部分ごとに図書室、集会室、食事スペースなどの役割を持たせるのが「地域100LDK構想」で、また、横浜市が進めているリビングラボ（企業、大学、NPOなどと行政が同じテーブルに着きアイデアを出し合う場）では、「空き家を使えば、世代、文化を超えて、意図的に人と人との関わりを生むことができる」と、地域のコミュニティ機能を果たす利活用の仕方を強調して事業を進めています。

近藤さんの現場での活躍ぶりを伺い、まち再生の切り札としての空き家利活用のこれからを一緒に話しましょう。

☆人むすびカフェ ファシリテーター：角田 知行さん

ワールド・カフェの手法を用いて、ゲストのお話から連想されるアイデアやお互いの想いを対話します。

4. 会場：EIJIPRESS Lab（渋谷区恵比寿南1-9-12 ピトレスクビル5F）

5. 参加費：1000円 ※終了後、軽く交流会を開催します。（実費2,000円）お申し込みは20日（水）まで。

お申込はHPまたはメールからどうぞ！

お名前、所属、電話、mailアドレス、懇親会参加をご明記ください。<http://www.terrestrial.co.jp/musubi/>

※記録写真の撮影とその活用をご了承ください。

株式会社テラ・コーポレーション内

“人むすびの場”づくり企画運営チーム：高重

東京都文京区白山1丁目20番4号

ハウス白山ビル4階（〒113-0001）

TEL:03(3815)1981

Email:info@terrestrial.co.jp

※お預かりした個人情報は本ご案内の他に利用しません

